議 事 日 程 第 5 号

令和3年9月29日（水）午前10時開議

（決算特別委員長報告）

- 日程第 1 認第 1号 令和2年度米沢市一般会計歳入歳出決算
- 日程第 2 認第 2号 令和2年度米沢市国民健康保険事業勘定特別会計歳入歳出決算
- 日程第 3 認第 3号 令和2年度米沢市後期高齢者医療費特別会計歳入歳出決算
- 日程第 4 認第 4号 令和2年度米沢市介護保険事業勘定特別会計歳入歳出決算
- 日程第 5 認第 5号 令和2年度米沢市と畜場及び食肉市場費特別会計歳入歳出決算
- 日程第 6 認第 6号 令和2年度米沢市青果物地方卸売市場費特別会計歳入歳出決算
- 日程第 7 認第 7号 令和2年度米沢市物品調達費特別会計歳入歳出決算
- 日程第 8 認第 8号 令和2年度米沢市南原財産区費特別会計歳入歳出決算
- 日程第 9 認第 9号 令和2年度米沢市三沢東部財産区費特別会計歳入歳出決算
- 日程第10 認第10号 令和2年度米沢市水道事業会計決算
- 日程第11 認第11号 令和2年度米沢市下水道事業会計決算
- 日程第12 認第12号 令和2年度米沢市立病院事業会計決算
- 日程第13 議第67号 令和2年度米沢市水道事業会計剰余金の処分について

（総務文教常任委員長報告）

- 日程第14 議第58号 市有財産の減額貸付けについて

（民生常任委員長報告）

- 日程第15 議第59号 米沢市手数料条例の一部改正について

（産業建設常任委員長報告）

- 日程第16 議第60号 米沢市南原コミュニティセンター新設建築工事請負契約の一部変更について
- 日程第17 議第61号 米沢市道路占用料徴収条例の一部改正について
- 日程第18 議第62号 米沢市都市公園条例の一部改正について
- 日程第19 議第63号 市道路線の認定について
- 日程第20 請願第2号 米の需給調整に関する意見書提出方請願

(予算特別委員長報告)

日程第21 議第64号 令和3年度米沢市一般会計補正予算(第4号)

日程第22 議第65号 令和3年度米沢市国民健康保険事業勘定特別会計補正予算(第1号)

日程第23 議第66号 令和3年度米沢市介護保険事業勘定特別会計補正予算(第1号)

日程第24 議第68号 令和3年度米沢市一般会計補正予算(第5号)

日程第25 発議第4号 米の需給調整に関する意見書の提出について

日程第26 発議第5号 コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書の提出について

日程第27 発議第6号 豪雪地帯対策特別措置法の改正等に関する意見書の提出について

本日の会議に付した事件

議事日程第5号と同じ

出欠議員氏名

出席議員(24名)

1番	鳥海隆太	議員	2番	成澤和音	議員
3番	齋藤千恵子	議員	4番	古山悠生	議員
5番	井上由紀雄	議員	6番	小島一	議員
7番	小久保広信	議員	8番	影澤政夫	議員
9番	高橋英夫	議員	10番	高橋壽	議員
11番	堤郁雄	議員	12番	関谷幸子	議員
13番	遠藤正人	議員	14番	山村明	議員
15番	山田富佐子	議員	16番	佐藤弘司	議員
17番	太田克典	議員	18番	我妻徳雄	議員
19番	島貫宏幸	議員	20番	木村芳浩	議員
21番	相田克平	議員	22番	工藤正雄	議員

23番 中村圭介 議員

24番 島軒純一 議員

欠席議員（なし）

出席要求による出席者職氏名

市長	中川勝	副市長	大河原真樹
総務部長	後藤利明	企画調整部長	遠藤直樹
市民環境部長	安部道夫	健康福祉部長	山口恵美子
産業部長	安部晃市	建設部長	吉田晋平
会計管理者	小関浩	上下水道部長	高橋伸一
病院事業管理者	渡邊孝男	市立病院事務局長	渡辺勅孝
総務課長	高橋貞義	財政課長	土田淳
政策企画課長	伊藤昌明	教育長	土屋宏
教育管理部長	森谷幸彦	教育指導部長	山口玲子
選挙管理委員会委員長	玉橋博幸	選挙管理委員会事務局長	佐藤幸助
代表監査委員	志賀秀樹	監査委員局長	片桐茂
農業委員会会長	伊藤精司	農業委員会事務局長	穴戸徹朗

出席した事務局職員職氏名

事務局長	三原幸夫	事務局次長	細谷晃
副主幹兼 議事調査主査	渡部真也	総務主査	澁江嘉恵
主事	齋藤拓也		

午前 9時59分 開 議

- 相田克平議長 おはようございます。
ただいまの出席議員24名であります。
直ちに本日の会議を開きます。
本日の会議は議事日程第5号により進めます。

.....

日程第1 認第1号令和2年度米沢市一般
会計歳入歳出決算外12件

- 相田克平議長 日程第1、認第1号令和2年度米沢市一般会計歳入歳出決算から日程第13、議第67号令和2年度米沢市水道事業会計剰余金の処分についてまでの議案13件は、議事の都合により一括議題といたします。

この場合、決算特別委員会における審査の経過と結果について報告願います。

決算特別委員長22番工藤正雄議員。

〔決算特別委員長22番工藤正雄議員登壇〕

- 22番(工藤正雄議員) 御報告申し上げます。

去る1日の本会議において、当委員会に付託されました案件は、認第1号から認第12号までの認定案件12件及び議第67号の議決案件1件であります。

当委員会は、議会日程に従い、10日及び13日から15日までの4日間にわたり、委員会室において全委員出席の下、当局から監査委員、病院事業管理者ほか関係部課長に出席を求め、開会いたしました。

審査に当たっては、認第1号から認第12号まで及び議第67号の付託案件を一括議題として、当局から各会計の歳入歳出決算概要について説明を受け、続いて、これに対する総括質疑を行い、その後、認第1号令和2年度米沢市一般会計歳入歳出決算の歳出から順次審査を行いました。

なお、各会計決算の内容については、令和2年

度米沢市歳入歳出決算書のほか関係附属資料等で各議員御承知と存じますので、その詳細については省略し、総括質疑及び各会計決算審査の中で質疑のあった主なものを取りまとめて申し上げます。

まず、総括質疑では、委員から、新型コロナウイルス感染症の影響により、税収の減が懸念される中で、今後大規模事業が予定されているが、財政指標の推移について、どのように考えているかとの質疑があり、当局から、財政指標については、例えば、経常収支比率だけを捉えて、財政状況が悪化したとの意味合いにはならないため、その時々状況により、様々な指標と併せて評価していきたいとの答弁がありました。

また、委員から、市税の収入未済額が前年度より増えていることから、滞納者の状況にどのような傾向があるのか。また、滞納者へどのような対応をしているのかとただされ、当局から、令和元年度末から、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年度の収納率が下がったところである。滞納者への対応については、徴収猶予の特例制度を適用しながら分納相談を行い、納税者の置かれた立場を尊重し、併せて収納率の改善に努めていきたいとの答弁がありました。

このほか、財政健全化計画の再策定について、コロナ禍に伴う市内産業界への支援について、種々質疑がありました。

次に、一般会計歳入歳出決算のうち、歳出について申し上げます。

まず、第2款総務費では、委員から、独り暮らしの高齢者、二人暮らしの高齢者世帯が増えていくことを考えると、地域の支え合いによる除排雪モデル事業を普及させることは大事な取組と考える。令和2年度は、7団体に対し補助金を交付したとあるが、この中で特徴的な取組はあったのかとただされ、当局から、令和元年度にモデル事業として実施したが、暖冬の影響により除雪関係の備品を購入するにとどまっていた。令和2年度は、主な取組として、独り暮らしの高齢者や障がい者

の自宅前の除排雪を地域住民が協力して取り組むほか、除雪道具の購入、雪下ろし講習会の開催など、地域で支え合う除排雪の活動が少しずつ高まっているとの答弁がありました。

また、委員から、西吾妻山×天元台高原×白布温泉エリアリボンプロジェクト事業について、観光客を誘客するだけでなく、市民から愛されるエリアになることが重要であり、市民への周知はどのようにしてきたのか。また、観光客の増加により市内経済の活性化につながるような取組は行っているのかとの質疑があり、当局から、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により、天元台×白布リボン協議会の設立及び事業の開始が遅れたものの、特別催事事業として圧雪車を使っての遊覧を始めており、今後も多くの市民に来てもらえるような取組を続けていきたい。また、エリアの再生に加えて、市内の活性化につなげられるよう、株式会社天元台の事業と連携して取り組んでいきたいとの答弁がありました。

このほか、契約検査事務事業について、LINE、ツイッターの公式アカウント開設について、コミュニティー活動の促進に関する経費について、情報通信基盤施設管理事業について、種々質疑、要望がありました。

次に、第3款民生費では、委員から、災害時要援護者避難支援事業について、災害時要援護者数から見て支援制度への登録者が少ないと思われるがどうかとの質疑があり、当局から、毎年、新規対象者への申請案内と、未登録者にも登録のお願いをしているが、登録者は大きく増えていない状況である。今後は、各要援護者の具体的な避難を盛り込んだ計画が必要になるため、引き続き登録をお願いしていきたいとの答弁がありました。

また、委員から、障がい者虐待防止のための相談員は何名配置されているのかとただされ、当局から、現在、社会福祉課内に米沢市障がい者虐待防止センターを設置し、専門の職員を1名配置している。このことにより、虐待に至る前の対応に

つながっていると考えているとの答弁がありました。

このほか、人工透析患者通院交通費助成費について、老人ホーム等建設事業費補助金について、老人クラブの活動の在り方について、児童遊園の利用状況について、種々質疑、要望がありました。

次に、第4款衛生費では、委員から、市民が楽しみながら自主的に健康づくりに取り組んでいただく健康マイレージ事業について、参加した市民の行動変容から効果はあったようだが、参加人数が少ないと感じる。参加人数についてどのように評価し、また、どのような周知を行ったのかとの質疑があり、当局から、令和2年度の参加人数については、大変寂しい結果と捉えている。周知方法としては、4月15日に全戸配布している健診ガイドブックに、健康マイレージ事業について掲載した。ほかにも、各種事業等を通じて周知を図ってきたが、コロナ禍の中にあり全体的に少なかったとの答弁がありました。

また、委員から、胃がん検診に胃内視鏡検査を導入し、胃エックス線検査と選択できるようになったが、その効果はどうか。また、全体的にがん検診の精検受診率が県平均より高いが、大腸がんについてのみ少し低くなっている。この点はどのように分析しているのかとただされ、当局から、胃エックス線検査が難しい方が内視鏡検査を受けられるようになったことで、早期がんの発見にもつながり、大変有効な検査となっている。大腸がん検診の1次検診は気軽に受けしてもらえるが、精密検査は重要性の認識が低いと思われるため、精密検査の受診勧奨を繰り返し行い、受診率向上に努めたいとの答弁がありました。

このほか、インフルエンザ予防接種の助成対象者について、在宅寝たきり者等訪問歯科診療事業運営費補助金の対象者について、狂犬病の予防接種について、種々質疑、要望がありました。

次に、第5款労働費では、委員から、県内での就職を希望している新規高卒者が年々増えている

ため、力を入れて取り組むべきであると考えがどうかとの質疑があり、当局から、市内の製造業を中心に求人が増えていることから、予算を有効に活用し、地元企業に就職してもらえよう関係機関と一緒に取り組んでいきたいとの答弁がありました。

次に、第6款農林水産業費では、委員から、電気柵の整備により猿の被害が少なくなったとの声を聞いているが、ハクビシンやイノシシの対策はどのようなものがあるかとの質疑があり、当局から、電気柵が有効であり、併せて捕獲も行っている。今後は、全国的な優良事例となった山上地区の取組を参考に、放任果樹の伐採活動や電気柵の設置手法を他地区に拡大し、被害軽減を図っていくとの答弁がありました。

さらに、委員から、森林情報管理システム等データ更新業務委託とは、具体的にどのようなデータの更新を委託しているのか。また、今後も毎年200万円前後の費用をかけて更新していくのかとただされ、当局から、山の所有者、位置等を管理するデータを更新する業務であり、所有権移転のほか、主伐、森林整備の状況、それに伴う図面の変更なども含むため、今後も委託していく考えであるとの答弁がありました。

このほか、花き次期作支援事業補助金の評価について、大森山森林公園の総合的ビジョンについて、種々質疑、要望がありました。

次に、第7款商工費では、委員から、新型コロナウイルス感染症の拡大防止及び緊急時の事業継続対策として交付したオンライン化促進支援事業費補助金により、市内企業のテレワーク環境の整備はどの程度進んだのかとただされ、当局から、令和2年度は、整備費用を県と2分の1ずつ負担し、市内の181事業者に補助金を交付し、支援を図ったとの答弁がありました。

このほか、西吾妻山観光拠点誘客事業の成果について、天元台索道施設の老朽化等について、種々質疑、要望がありました。

次に、第8款土木費では、委員から、市道整備や流雪溝整備等の要望を受けたが着手できていないものについて、要望者にその理由を伝えることが必要と考えるがどうかとただされ、当局から、要望者立会いの下、現地確認し、評価の結果や整備の時期について、口頭または求められた場合は書面により回答している。今後は、要望に対しての進捗状況や評価等を公表できるよう整理していきたいとの答弁がありました。

また、委員から、公園、緑地内の樹木の維持管理はどのように行われているのかとの質疑があり、当局から、台風などの強風があった翌日は職員がパトロールを行い、安全点検をしている。また、維持管理業者から連絡を受け、倒木等を発見することもあり、不具合のあるものについては安全対策を実施し、緊急度に応じて伐採等の処理を行っているとの答弁がありました。

このほか、住宅リフォーム総合支援事業費補助金による経済波及効果について、空き家の応急措置業務について、除雪オペレーター育成支援事業費補助金による成果について、種々質疑、要望がありました。

次に、第9款消防費では、委員から、自主防災組織設立後の組織にどのような支援、指導を行っているのか。また、活動を活発にするための啓蒙活動は行っているのかとただされ、当局から、毎年春に組織の活動調査を行うとともに、自主防災組織のリーダー研修、防災士の養成講座などの案内を市内全ての自主防災組織に送付し、参加を呼びかけ、活動を促しているとの答弁がありました。

これに対し、委員から、活動を継続していくことが重要と考える。災害が発生したときは、地域の自主防災組織が力を発揮することになるため、何かの機会を捉えて地域で活動いただくよう、市から強くお願いしてほしいとの要望がありました。

このほか、新型コロナウイルス感染症対策に係る避難所用品の配置について、質疑がありました。

次に、第10款教育費では、委員から、学力検査

の結果について、どう分析しているのか。また、学力検査を利用した教育指導はなされているのかとの質疑があり、当局から、学力については学校ごとにばらつきがあるが、各学校において自校の結果を分析し、課題の洗い出しとその改善に努めている。一方、学力検査の制作元では、子供向けの補助資料を個別に準備することができるため、そのようなものを活用しながら指導していきたいとの答弁がありました。

さらに、委員から、ストレスチェックについて、専門的な知見も得られるような仕組みと、予算を有効に活用した受診体制をつくってほしいと考えるがどうかとただされ、当局から、ストレスチェックは教職員対象のものであり、その結果を受け、ストレス度が高い場合には産業医への相談を勧めている。専門的な知見は重要なことと捉えているため、予算の有効活用について今後も検討していきたいとの答弁がありました。

このほか、中学校への給食配送業務委託料の積算方法について、米澤上杉城下町マラソン大会の今後の在り方について、種々質疑、要望がありました。

次に、第11款災害復旧費、第12款公債費及び第13款予備費については、質疑がありませんでした。

次に、歳入では、市税の徴収員への指導及び市税の滞納処分の手続等について、また、入湯税の用途状況について質疑がありました。

以上が、一般会計歳入歳出決算の審査における質疑の主なものでありますが、本案については、意見もなく、全委員異議なく、認定すべきものと決しました。

続いて、特別会計について御報告申し上げます。

初めに、認第2号令和2年度米沢市国民健康保険事業勘定特別会計決算では、委員から、令和2年度決算において、国民健康保険税の収入未済額は約3億4,000万円あり、滞納繰越分の収納率も14.8%と低い。今後、さらに滞納繰越が増えていくことになれば、国保会計を圧迫することになる

のではないかと質疑があり、当局から、国民健康保険税の調定額は、人口減少や景気動向、またコロナ禍により落ち込んでいるものの、収納率は現年度分、滞納繰越分ともに上昇している。今のところ、税収の落ち込みが国保会計の運営に影響しているとは考えていないとの答弁がありました。

採決に当たっては、委員から、昨年来のコロナ禍で納税者の生活が厳しくなっている現状があることから、一般会計からの法定外繰入れや国民健康保険財政調整基金の取崩しによって税率を改正すべきだったと考えるため、本決算の認定には反対するとの意見がありましたので、起立採決を行った結果、賛成多数で認定すべきものと決しました。

次に、認第3号令和2年度米沢市後期高齢者医療費特別会計決算では、質疑はなかったものの、採決に当たっては、委員から、後期高齢者医療費制度自体に反対であり、本決算の認定にも反対するとの意見がありましたので、起立採決を行った結果、賛成多数で認定すべきものと決しました。

次に、認第4号令和2年度米沢市介護保険事業勘定特別会計決算では、委員から、市の高齢者福祉計画、第8期介護保険事業計画では、いわゆる小規模特養及び介護医療院について整備を推進することのことだが、その施設の整備だけでは入所待機者の解消には至らず、絶対数が足りないと思っている。このことに関し、市の認識はどうかとただされ、当局から、特別養護老人ホームでは入所待機者が出ているが、今後、10年、20年の期間で考えると高齢者も減少していくことから、大規模な施設の建設は、市や事業者にとって将来的に負担になると捉えている。今後の介護財政も考慮し、介護度を重度化させないような方策も併せて組み立てながら、これからの計画にも反映し、事業を推進していく必要があると考えているとの答弁がありました。

採決に当たっては、委員から、特別養護老人ホームの入所待機者が100名を超えており、市はこの状

況をすぐに打破すべきだと考えている。この観点から、本決算の認定には反対するとの意見がありましたので、起立採決を行った結果、賛成多数で認定すべきものと決しました。

次に、認第5号令和2年度米沢市と畜場及び食肉市場費特別会計決算では、冷蔵庫改修に係る市債の充当について質疑がありましたが、意見もなく、全委員異議なく、認定すべきものと決しました。

次に、認第6号令和2年度米沢市青果物地方卸売市場費特別会計決算では、とりわけ質疑もなく、意見もなく、全委員異議なく、認定すべきものと決しました。

次に、認第7号令和2年度米沢市物品調達費特別会計歳入歳出決算から認第9号令和2年度米沢市三沢東部財産区費特別会計決算までの3案件については、質疑もなく、意見もなく、全委員異議なく、認定すべきものと決しました。

続いて、企業会計について御報告申し上げます。

初めに、認第10号令和2年度米沢市水道事業会計決算及び議第67号令和2年度米沢市水道事業会計剰余金の処分については、関連がありましたので、一括して審査いたしました。

審査においては、委員から、老朽管の更新については、終わりのない事業だと思うが、市はどのように捉え、事業を推進していくのかとただされ、当局から、耐用年数が40年から50年の普通铸铁管を対象として布設替え等を進めてきたが、一定のめどがついたことから、現在は重要管路の耐震化を実施している。次々と管の耐用年数を迎えるため、今後も継続的に事業を推進しながら、安定給水に努めていきたいとの答弁がありました。

このほか、水道料金の未収金の回収策について、本市の有収率について、第4期水道事業中期経営計画の達成状況等について、質疑がありました。

採決に当たっては、認第10号及び議第67号について、それぞれ採決を行った結果、全委員異議なく、認定、可決すべきものと決しました。

次に、認第11号令和2年度米沢市下水道事業会計決算では、委員から、本市の公共下水道事業は供用開始から35年経過し、下水道本管の耐用年数からいえば、十数年後には更新時期を迎えることとなるが、現時点における事業の進捗状況についてどのように評価しているのかとの質疑があり、当局から、今後は、人口減少による下水道使用料収入の落ち込みや、施設設備の老朽化に伴う改築費用などを考慮しなければならず、大変厳しい状況になると想定している。本年3月に策定した生活排水処理基本計画では、将来を見据えた持続可能な下水道経営を図る観点から、公共下水道で整備する区域を縮小し、合併処理浄化槽による生活排水処理を推進していくこととした。区域を拡大するような管渠整備は現在行っておらず、今後は事業認可区域を一部縮小していく予定であるとの答弁がありました。

このほか、下水道使用料改定の必要性について、今後の農業集落排水事業の見通し等について、質疑がありました。

本案については、意見もなく、全委員異議なく、認定すべきものと決しました。

次に、認第12号令和2年度米沢市立病院事業会計決算では、委員から、米沢市立病院改革プランは、経営効率化など4つの視点により実施されている。これまで、収支改善の項目を達成するためにどのようなことに取り組みされてきたのかとの質疑があり、当局から、昨年7月に地域医療支援病院の資格を取得し、このことにより年間換算で四千数百万円の改善効果があったほか、年度後半からは、患者を集める対策として、入院患者のベッドコントロールを適切に行うことで良質な医療を提供し、診療報酬上もメリットが出るような準備を進めたところである。また、地域医療支援病院の役割として、地域の医師との連携をさらに密なものとするために、院内に設置した地域医療センターによって広報活動を行い、ひいては集患につなげていくよう努めているところであるとの答弁

がありました。

このほか、薬剤師の確保について、減価償却費の増減について、欠損金の処理等について、質疑がありました。

本案については、意見もなく、全委員異議なく、認定すべきものと決しました。

以上、当委員会に付託されました案件の審査経過の概要と、その結果を申し上げ、委員長報告といたします。

○相田克平議長 ただいまの決算特別委員長報告に対し、御質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相田克平議長 質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、通告がありませんので、討論を終結し、採決いたします。

お諮りいたします。

決算特別委員長報告中、異議のありました認第2号から認第4号までの議案3件を除く、認第1号、認第5号から認第12号まで及び議第67号の議案10件を委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○相田克平議長 御異議なしと認めます。よって、認第1号、認第5号から認第12号まで及び議第67号の議案10件は、委員長報告のとおり決まりました。

次に、異議のありました認第2号から認第4号までの議案3件について、順次起立により採決いたします。

初めに、認第2号について採決いたします。

認第2号に対する委員長報告は、賛成多数で認定であります。

お諮りいたします。

認第2号を委員長報告のとおり決するに賛成の議員は御起立願います。

〔賛成者起立〕

○相田克平議長 起立多数であります。よって、認第2号は委員長報告のとおり決まりました。

次に、認第3号について採決いたします。

認第3号に対する委員長報告は、賛成多数で認定であります。

お諮りいたします。

認第3号を委員長報告のとおり決するに賛成の議員は御起立願います。

〔賛成者起立〕

○相田克平議長 起立多数であります。よって、認第3号は委員長報告のとおり決まりました。

次に、認第4号について採決いたします。

認第4号に対する委員長報告は、賛成多数で認定であります。

お諮りいたします。

認第4号を委員長報告のとおり決するに賛成の議員は御起立願います。

〔賛成者起立〕

○相田克平議長 起立多数であります。よって、認第4号は委員長報告のとおり決まりました。

.....

日程第14 議第58号市有財産の減額貸付けについて

○相田克平議長 次に、日程第14、議第58号市有財産の減額貸付けについてを議題といたします。

この場合、総務文教常任委員会における審査の経過と結果について報告願います。

総務文教常任委員長13番遠藤正人議員。

〔総務文教常任委員長13番遠藤正人議員登壇〕

○13番（遠藤正人議員） 御報告申し上げます。

去る1日の本会議におきまして、当委員会に付託されました案件は、議案1件であります。

当委員会は、議会日程に従い、16日の午前10時から委員会室において、全委員出席の下、関係部課長の出席を求め、開会いたしました。

以下、審査の経過と結果をご報告申し上げます。議第58号市有財産の減額貸付けについてであり

ますが、本案は、株式会社上杉コーポレーションに対し、土地4,600平方メートルを、貸付け適正額から3分の1に減額して貸し付けようとするものであります。

本案に対し、委員から、昨年からの新型コロナウイルスの影響により観光客が減っている中で、上杉城史苑の経営状況はどうかとただされ、当局から、令和3年度の同時期の売上は、令和元年度に比べると7割程度、令和2年度に比べると2割の増という状況で伸びが限られているとの答弁がありました。

また、委員から、将来の不確定要素を排除するためには、現在の地上権設定契約を合意解約して、契約締結時には存在しなかった、契約更新を伴わない事業用定期借地権制度に基づく契約を結ぶことができるが、今回の契約に当たって、なぜそのような方法を取らなかったのか、その検討の経緯をただされ、当局から、建物については、事業主体が建設し、その維持管理や大規模改修なども含め、今後も事業主体で行う考えを持っている。その際の資金調達の観点から、抵当権の設定ができない事業用定期借地権による契約では不都合が生じるため、相手方との協議によって、今後も継続して地上権の設定が必要と判断したものであるとの答弁がありました。

さらに、委員から、万が一、相手方が破産等の状況に陥った場合、現契約上は解除の条項はあるものの、建物が競売になり、土地に対する地上権を失うことが懸念される。上杉城史苑用地を売却ではなく貸付けとした理由が、市の観光の要所であるこの土地を市の意向にそぐわない利用とさせないためだったことを考えると、相手方の破産という事態は絶対に避けなければならないが、このことについての認識はどうかとの質疑があり、当局から、法的には、資金調達のために抵当権が設定された場合、資金の返済ができなくなった際には担保物件である地上権が移転することがあり得ると考えている。市は、筆頭株主として月1回の

経営会議に出席しており、毎月の貸借対照表や損益計算書などの経営状況が分かる資料で経営状況を逐一把握しているが、今後もそうした事態に至らないように注意して対応していくとの答弁がありました。

また、委員から、上杉コーポレーションが安定経営を続けていくためにどのような対策を考えているのかとの質疑があり、当局から、道の駅米沢との連携や、二次交通の整備などによる松が岬公園周辺の観光拠点である上杉文化エリアへの誘客活動を進めてにぎわいの場を創出し、事業の基盤づくりを図っていくとの答弁がありました。

本案については、意見もなく、全委員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上、当委員会に付託されました議案1件の審査の経過と結果を申し上げ、委員長報告といたします。

○相田克平議長 ただいまの総務文教常任委員長報告に対し、御質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相田克平議長 質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、通告がありませんので、討論を終結し、採決いたします。

お諮りいたします。

議第58号を委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○相田克平議長 御異議なしと認めます。よって、議第58号は委員長報告のとおり決まりました。

.....

日程第15 議第59号米沢市手数料条例の一部改正について

○相田克平議長 次に、日程第15、議第59号米沢市手数料条例の一部改正についてを議題といたします。

この場合、民生常任委員会における審査の経過と結果について報告願います。

民生常任委員長17番太田克典議員。

〔民生常任委員長17番太田克典議員登壇〕

○17番（太田克典議員） おはようございます。御報告申し上げます。

去る1日の本会議において、当委員会に付託されました案件は、議案1件であります。

当委員会は、議会日程に従い、17日の午前10時から委員会室において、全委員出席の下、関係部課長の出席を求め、開会いたしました。

以下、審査の経過と結果について御報告申し上げます。

議第59号米沢市手数料条例の一部改正についてであります。本案は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の一部改正に伴い、個人番号カード再交付手数料を廃止しようとするものであります。

本案については、質疑もなく、意見もなく、全委員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上、当委員会に付託されました議案1件の審査の経過と結果を申し上げ、委員長報告といたします。

○相田克平議長 ただいまの民生常任委員長報告に対し、御質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相田克平議長 質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、通告がありませんので、討論を終結し、採決いたします。

お諮りいたします。

議第59号を委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○相田克平議長 御異議なしと認めます。よって、議第59号は委員長報告のとおり決まりました。

.....

日程第16 議第60号米沢市南原コミュニティセンター新設建築工事請負契約の一部変更について
外4件

○相田克平議長 次に、日程第16、議第60号米沢市南原コミュニティセンター新設建築工事請負契約の一部変更についてから日程第20、請願第2号米の需給調整に関する意見書提出方請願までの議案4件、請願1件は、議事の都合により一括議題といたします。

この場合、産業建設常任委員会における審査の経過と結果について報告願います。

産業建設常任委員長19番島貫宏幸議員。

〔産業建設常任委員長19番島貫宏幸議員登壇〕

○19番（島貫宏幸議員） 御報告申し上げます。

去る1日の本会議において、当委員会に付託されました案件は、議案4件、請願1件であります。

当委員会は、議会日程に従い、21日の午前9時から委員会室において、各委員出席の下、関係部課長の出席を求め、開会いたしました。

また、審査に先立ち、市道路線として認定しようとする箇所について、現地調査を行いました。

以下、審査の経過と結果について御報告申し上げます。

初めに、議第60号米沢市南原コミュニティセンター新設建築工事請負契約の一部変更についてであります。本案は、現在施工している米沢市南原コミュニティセンター新設建築工事について、地盤改良工事等の一部変更のほか、ウッドショックの影響により、木材の納入に遅延が生じたため、現場の維持に必要な経費を追加し、工期を延長する必要があることから、契約金額を1億4,740万円から1億5,369万2,000円に増額するとともに、工事の完成日を令和3年10月19日から令和3年11月19日に延長し、契約を変更しようとするものであります。

本案については、とりわけ質疑もなく、意見もなく、全委員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議第61号米沢市道路占用料徴収条例の一部改正についてであります。本案は、道路の占用に係る占用料を改めるとともに、自動運行補助施設による道路の占用に係る占用料を定めるほか、規定の整備を図ろうとするものであります。

本案については、質疑もなく、意見もなく、全委員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議第62号米沢市都市公園条例の一部改正についてであります。本案は、都市公園の使用に係る使用料を改めるほか、規定の整備を図ろうとするものであります。

本案については、質疑もなく、意見もなく、全委員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議第63号市道路線の認定についてであります。本案は、県道移管に伴い1路線を新規認定しようとするものであります。

本案については、質疑もなく、意見もなく、全委員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、請願第2号米の需給調整に関する意見書提出方請願であります。本請願は、新型コロナウイルス感染症拡大により、予期せぬ需要減が起きた令和2年産米がこの秋以降に持ち越されれば、令和3年産米の需給緩和による米価の下落、また、令和4年産米の作付縮小にもつながり、本県の農業へ甚大な影響を及ぼすことが懸念されるため、政府備蓄米の運用改善などの対策を講じるよう、国に対し、意見書を提出していただきたいとするものであります。

審査に先立ち、参考人から補足説明を受け、審査に入りました。

本請願に対し、委員から、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う飲食店の利用減少等によって、

米の需要が減少したことに対し、請願者は消費拡大に向けてどのような取組を行っているかとの質疑があり、参考人から、管内の学校給食に使用していただくなど、地域に根差した独自の取組を行っている。また、イベントの開催に代わる消費者への販売促進につなげられるような場が設けられないか検討中であるとの答弁がありました。

本請願については、意見もなく、全委員異議なく、採択とすべきものと決しました。

以上、当委員会に付託されました議案4件、請願1件の審査の経過と結果を申し上げ、委員長報告といたします。

○相田克平議長 ただいまの産業建設常任委員長報告に対し、御質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相田克平議長 質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、通告がありませんので、討論を終結し、採決いたします。

お諮りいたします。

議第60号から議第63号まで及び請願第2号の議案4件、請願1件を委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○相田克平議長 御異議なしと認めます。よって、議第60号から議第63号まで及び請願第2号の議案4件、請願1件は委員長報告のとおり決まりました。

ここで暫時休憩いたします。

午前10時50分 休 憩

~~~~~

午前11時00分 開 議

○相田克平議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

.....

日程第21 議第64号令和3年度米沢市
一般会計補正予算（第4号）
外3件

○相田克平議長 次に、日程第21、議第64号令和3年度米沢市一般会計補正予算（第4号）から日程第24、議第68号令和3年度米沢市一般会計補正予算（第5号）までの議案4件は、議事の都合により一括議題といたします。

この場合、予算特別委員会における審査の経過と結果について報告願います。

予算特別委員長 2 番成澤和音議員。

〔予算特別委員長 2 番成澤和音議員登壇〕

○2番（成澤和音議員） 御報告申し上げます。

去る9月1日及び7日の本会議において、当予算特別委員会に付託されました案件は、議案4件であります。

当委員会は、議会日程に従い、22日午前10時から議場、委員会室において、全委員出席の下、当局から市長をはじめ、教育長及び関係部課長等にも出席を求め、審査を行いました。

なお、議案の内容につきましては、市長の説明要旨や事項別明細書等で、各議員御承知のことと存じますので、その説明を省略させていただきます。以下、審査経過の中でありました質疑等の主なものと、その結果を取りまとめて御報告申し上げます。

初めに、議第64号令和3年度米沢市一般会計補正予算（第4号）の歳出については、補正予算の提案があった款項のほか、事前に質問通告のあった款項についても質疑が行われました。

第2款総務費では、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、様々な祭りや事業が中止となっている。本市が支出する予算もあると思うが、予算の執行状況はどのようになっているのか。市内の飲食・観光業は相当影響を受けている。市内経済を回すための新規の事業や昨年実施した米商連の

愛の商品券事業など、経済波及効果を目指した事業の補正予算は考えているのかとして質疑がありました。

また、今年度の入札件数と入札不調件数及び不調の要因は何か。また、以前要望した入札制度についても検討しているのかとして質疑がありました。

第6款農林水産業費では、学校給食における地産地消の状況について、地場産野菜の品目は12品目で、野菜の使用率は2割強となっており、約7割は置賜産以外の野菜が使用されているとのことだが、今後、自校方式、センター方式にかかわらず、安定的に米沢産の野菜を供給できるシステム構築が重要と考える。そこで、契約栽培など地元農家との連携が必要ではないか。また、学校給食の地産地消を進める上での課題は何かとして質疑がありました。

さらに、米価の値下がりによる本市への影響額について、現時点では把握していないとのことだが、対応策は検討しているのかとして質疑がありました。

第7款商工費では、西吾妻山紅葉満喫誘致事業について、想定している誘客数の根拠はどうか。また、この事業を県内外にどのように周知していくのか。さらに、この事業は天元台単独での事業なのか、西吾妻山×天元台高原×白布温泉エリアリポーンプロジェクトとの関わりはどうかとして質疑がありました。

第8款土木費では、やまがたの家需要創出事業費について、これまでのリフォーム事業と今回のコロナ対策のリフォーム事業との具体的な違いは何かとして質疑がありました。

第9款消防費では、地球温暖化等により自然災害が絶えない状況だが、コロナ禍において、災害が発生した場合の避難所の対応はどのように考えているのか。また、大災害が発生した場合に他県から避難される方も想定されるが、本市としてはどのような備えをしているのか。さらに、災害対

応に関して民間企業何社と協定を締結し、その内容はどのようなものなのかとして質疑がありました。

第10款教育費では、GIGAスクールが始まり、県外の市で、小学6年生が自分に配られたタブレットへの書き込みによるいじめで亡くなるという痛ましい事件が起きた。パスワード管理のずさんさや不適切なチャット機能の使用などが原因ではないかと指摘されているが、本市の運用はどのようなになっているのかとして質疑がありました。

以上が、議第64号令和3年度米沢市一般会計補正予算（第4号）に対する審査の経過の中でありました質疑の主なものでありますが、議第64号につきましては、全委員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決まりました。

次に、議第65号令和3年度米沢市国民健康保険事業勘定特別会計補正予算（第1号）及び議第66号令和3年度米沢市介護保険事業勘定特別会計補正予算（第1号）につきましては、質疑もなく、全委員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決まりました。

次に、議第68号令和3年度米沢市一般会計補正予算（第5号）の歳出であります。学校給食は子供たちにとって大事なものであり、もう少し時間をかけて議論すべきではないかとして質疑がありました。

また、学校給食共同調理場の運営方法について、基本構想・基本計画策定支援業務や民間活力導入可能性調査業務で直営か民営かが決定されるのか。また、運営方法が民間による運営に決定された場合、現在の技能労務職員の配置先も同時に整理されることになるのかとして質疑がありました。

さらに、公共施設等総合管理計画では、維持管理費を減らすために床面積を減らすとあるが、今回の学校給食共同調理場の建設は、計画との整合性が取れていないのではないかと。また、公共施設等総合管理庁内検討委員会の中で検討はされていたのかとして質疑がありました。

また、学校給食検討委員会の報告には、「財政面についての検討を加えた上で具体的な方式を策定してください」と記載されているが、方式の決定に当たって財政的な負担を検討したのかとして質疑がありました。

さらに、給食室を既存敷地内に建設するために、2階建てにしている他自治体の例もある。また、通学用のマイクロバスを別の場所に置くなど、方法によっては給食室を建てるスペースも確保できるのではないかと。これらのことから、再度、給食の提供方式を検討するべきではないかとして質疑がありました。

また、このたびの調査委託でPFIなど様々な方式を検討したときに、施設の管理費等について高額になった場合は振出しに戻り、自校方式も含めて再度検討することになるのかとして質疑がありました。

さらに、中学校給食のセンター化を市民に周知することについて、学校給食の基本方針及びそれを実現するための手法を取りまとめた内容を、ホームページ及び各種媒体等を使って市民の方々に周知を図ってきたとのことだが、多くの市民はこのセンター化を知らない。初めて聞いたという声も聞いている。市民に対する説明が不十分ではないかとして質疑がありました。

さらに、（仮称）東中学校、（仮称）南西中学校、（仮称）北中学校の現在の敷地に給食室を建てた場合、教育活動に支障が出ることから建設はせず、共同調理場を新たな場所に建てるとのことだが、その判断として、給食室を建てるための面積や教育活動に支障が出ない面積がどれぐらいなのかの検討はどのように行ってきたのかとして質疑がありました。

また、第一中学校、第四中学校については、敷地内に給食室を建設できないと一貫して説明してきたことについて、面積が狭い広いではなく、子供たちが通学する動線に業者の車の動線が重なってくることから安全面に配慮したものだとして理解し

ている。また、第四中学校は今でさえ敷地が狭いとの声がある。冬期間に敷地内北側に押し雪をしている状況から、給食室を敷地内に建設しようとする事は、現場を知っている方からは出てくるはずはないと思うが、第一中学校、第四中学校に給食室を建設できない理由は何かとして質疑がありました。

さらに、現行の親子方式における解決したい課題として一番は、時間のゆとりのなさが挙げられてきた。中学校の給食を配送した後に自校の給食を作ることで、調理師は過重な労働状況にある。これを改善するため、今後の本市の学校給食の在り方を検討しているとの説明を受けてきたと認識しているが、現在の親子方式からセンター方式へ移行していく中で改善したいことは何か。また、センター方式にする優位性は、どのようなものがあるのかとして質疑がありました。

また、子供には出来たてで温かく、安全、安心な給食を食べさせてあげたいと思う一方、学校で友達と遊んだり好きな部活動ができるか、安全、安心に学校生活を送れるのかということも考える。今回の中学校のセンター化は、子供たちにとって最良の判断であると考えているのかとして質疑がありました。

以上が、議第68号令和3年度米沢市一般会計補正予算（第5号）の審査の経過の中でありました。質疑の主なものでありますが、採決に当たっては、米沢市学校給食検討委員会が7回にもわたる議論を経て、中学校の調理方式についても自校方式が最も望ましいとした答申が出され、その答申にはさらに、方式の実行に当たっては、財政的な知見を十分に検討され、早急な開始を促すという内容になっているが、教育委員会は、実現に向けた財政考察について十分な知見を示すこともなく、センター方式の優位性だけの説明に終始していると感じる。

また、教育長は、市民への説明の重要性について、米沢市学校給食検討委員会の委員は市民の代

表であり、十分市民ニーズとして反映されていると答弁したが、その答申とは全く違うことを方針化している。それは矛盾以外の何物でもないと考える。本補正予算は、それら不十分な内容をさらに増長する行為であり、民意を無視した業務委託、方針遂行については賛成できないことから、この議案に反対するとの意見。

これまでの教育委員会からの答弁を総合的に見れば、子供たちの学習環境の安全・安心が最優先である。その第一義的な立場に立った上で、本市の学校給食の今後の姿はどうあるべきかということで、教育委員会としては一貫して、これまでの議会における答弁も、これまでの検討も進めてきたと認識している。

子供たちに温かい給食を食べさせてあげたい。アレルギーを持つ子供たちには、小学生への対応と同等の対応をして食べさせてあげたい。それを本市全体でやろうとしたときに、子供たちの学習環境を犠牲にして中学校給食を自校方式にすることは、教育委員会としても選べなかったのだろうと思う。より最善の策は何なのかという立場で、子供たちの安全・安心、これからの学校、子供たちの将来、様々な部分において、総合的な視点、観点を踏まえた上で、今後の本市の学校給食はセンター化が妥当であることから、これまでの議論を重ね、現在に至っているという認識である。

センター化を今後具体的に進めていく上で、直営方式がいいのか、民間による運営がいいのか、建てる場所や、様々な議論を進めていくことを考えれば、教育委員会の中だけで議論するのは現実的ではないと思う。専門的な知見を加え、今後の本市の学校給食のよりよい形を模索してもらいたいことから、この議案に賛成するとの意見がありましたので、挙手による採決を行った結果、議第68号令和3年度米沢市一般会計補正予算（第5号）は、賛成多数で原案のとおり可決すべきものと決まりました。

以上、当予算特別委員会に付託されました議案

の審査経過の概要と結果を申し上げ、委員長報告といたします。

○相田克平議長 ただいまの予算特別委員長報告に対し、御質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相田克平議長 質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、議第68号に対し、10番高橋壽議員、16番佐藤弘司議員、7番小久保広信議員から討論の通告がありますので、順次発言を許可いたします。

初めに、10番高橋壽議員。

〔10番高橋 壽議員登壇〕

○10番（高橋 壽議員） 私は、議第68号、一般会計補正予算、学校給食共同調理場整備事業費に反対し、討論します。

反対の第1の理由は、米沢市の学校給食について、この間の教育委員会の進め方が市民不在で行われているからです。

教育委員会が設置した学校給食検討委員会が出した結論は、小学校、中学校ともに自校調理方式が最も望ましいとするものです。この結論に従えば、中学校給食は自校調理方式で実施するために、調査・検討を重ねるべきではないですか。ところが、教育委員会が出した学校給食の基本方針案では、学校給食検討委員会が出した結論とは真逆のセンター方式が適当としました。

学校給食検討委員会には、その説明をしてしかるべきものですが、その説明さえ一切ありません。方針案を検討委員会にも説明せず、市民に周知することもなく、市民意見を聴くこともなく、早々に方針と決めてしまいました。市民の意見を聴く機会さえ与えないやり方、そしてパブリック・コメント、市民意見公募制度の要領に従わずパブコメを実施せず、市民の意見を述べる機会も奪ってしまいました。

学校給食検討委員会の皆さんの議論をもって、市民の意見を聴いたと教育委員会はかたくなに言い続けていますが、そんな言い分は成り立ちませ

ん。教育委員会が、これまで同じように検討委員会を設置して方針案を出してきた事例で、パブリック・コメントを実施しなかったものは、要領で実施の必要がないと決められているものを除けば、一つもなかったではありませんか。

米沢市の学校給食の在り方を大きく転換することになる中学校給食のセンター化は、父母、給食に携わる多くの市民に直接関わる大問題にもかかわらず、直接意見を聴くこともしない。アンケートなど間接的に意見を聴こうともしない。全くの市民不在の極みだと言わざるを得ません。

反対の第2の理由は、教育委員会は独断専行で中学校給食のセンター化を進めていることです。

学校給食検討委員会の報告を受けて教育委員会が行ったとする検討は、不十分なものとわざるを得ません。

中学校の敷地に給食調理場を建設するには、スペースが不足するというのを自校調理方式ができないとする一番の理由に挙げています。各中学校に調理場建設に必要な面積の検証は十分されたのでしょうか。厨房メーカーが出した面積の積算根拠は妥当なのでしょうか。

例えば、（仮称）北中、今の四中の必要面積470平米は、休息室など附帯施設を加えれば600平米を超えると推測されます。北部小学校の西体育館を超える大きさです。こんな大きな調理場が本当に必要なのでしょうか。4人程度の調理師で体育館を走り回る、そんな状況が思い浮かびます。

2月5日の教育委員会協議会の情報公開開示資料、（仮称）北中のスクールバスの待機・回転スペースは、駐車場に長方形に網かけされた部分となっています。私が計算いたしましたら、1,330平米、約400坪ほどになっています。教育委員会に求めた資料を昨日頂きました。それを見て、私は全く驚きました。統合した（仮称）北中に必要なスクールバスは2台、デマンドタクシーは1台の計3台となっています。3台の待機スペースに400坪が必要ということになっているではありません

か。これでは、調理場を建てられないと思ひ込んでしまう方が出てくるのは当たり前ではありませんか。なぜ、こんなことになっているのですか。なぜ、議会にこうした資料を提供しないのですか。説明責任を果たしておりません。

さいたま市、川崎市の事例を私は紹介いたしました。250平米程度の調理場面積で700から1,000食を調理しています。最新の学校給食衛生管理基準とハサップに対応した設計となっています。休息室、機械室などを2階に上げる設計で学校敷地の狭い課題を突破しているわけです。米沢市教育委員会が必要とする面積の2分の1、3分の1の面積で建設しています。

さいたま市、川崎市だけではありませんでした。よく調べてみましたら、横浜市、相模原市、横須賀市など、神奈川県下の自治体の調理場の必要面積も、おしなべて2階建てにして、同じような面積で、同じような食数を確保しています。こうした事例を紹介、提案されてもなお、教育委員会は耳を傾けず、調査も検討もしようとしません。

アレルギー食の対応のことも、給食センターでも小学校と同程度、もっときめ細やかに対応ができると述べています。給食センターの調理現場、アレルギー対応の実際を確認して述べているとは到底思えません。教育委員会がつくった作文が、今、独り歩きをして、教育長も含めて、小学校以上にアレルギー対応ができるともう刷り込まれてしまっているのではないのでしょうか。こんなことになるのは、給食の現場を預かる調理師の皆さんや栄養教諭の皆さんの意見を全く聞いていないからではありませんか。子供たちの命がかかったこうした問題にもかかわらず、あまりにも軽く扱われていると思わざるを得ません。

こうした調査、検討、検証が全く不十分なことが多々ありながら、中学校給食のセンター化を一方的に正当化し、強行すべきではありません。9月議会で様々議員から指摘、そして提案された先進自治体の事例も含めて、私は改めて調査、検討

してみる、そして再検証をすべきだと考えます。補正予算を提出するならば、その再検討や再検証を受けて12月議会で提出すべきものではありませんか。

これから2か月間、僅か2か月間の再調査や再検討の期間も取れない、9月議会途中で追加上程しなければならない理由がほかに何かあるのでしょうか。学校給食検討委員会が、中学校も自校給食が最も望ましいとした理由があったはずですが。米沢の子供たちにとって、自校方式が最も望ましいという結論を出したことをしっかりと受け止めるべきではないでしょうか。

そのことを強く述べて、反対討論とします。

○相田克平議長 次に、16番佐藤弘司議員。

〔16番佐藤弘司議員登壇〕

○16番（佐藤弘司議員） 議第68号令和3年度米沢市一般会計補正予算（第5号）に対し、賛成討論を行います。

これまでの教育委員会からの答弁を総合的に見れば、まず最優先すべきは、子供たちの学習環境であり、その環境の安全・安心である。その第一義的な立場に立った上で、本市の学校給食の今後の在り方はどうあるべきかということで、教育委員会としては一貫して答弁し、検討が行われてきたと私は認識しております。

子供たちの安全を犠牲にして、学校敷地内での給食調理は、教育委員会として、そうした方向性、道は選べなかったのだろうと推測をするところでもあります。また、アレルギーを持つ子供たちに、ほかの子供たちと同様のものを食べさせたいというのは、親心として当然のことだと思います。

このような事例も踏まえ、子供たちの安全・安心、これからの学校の在り方、子供たちの将来など、様々な部分を総合的な視点、観点で検討されていることと認識しています。

今後、センター化を進める上で、直営、民営、建設場所、コストなど様々な検証を進めなければならないことを考えれば、教育委員会だけで進め

るのは現実的ではないと考えます。

これからの給食をよりよいものとするためにも、民間事業者が持つ専門性やノウハウを活用する、その調査業務に関する費用を計上しているところの本補正予算について、賛成をいたします。

以上であります。議員各位の賢明な判断をお願い申し上げます。

○相田克平議長 次に、7番小久保広信議員。

〔7番小久保広信議員登壇〕

○7番（小久保広信議員） 議第68号令和3年度米沢市一般会計補正予算（第5号）について、反対の立場で討論を行います。

今回の補正予算は、2021年4月に米沢市教育委員会が、学校給食検討委員会が導き出した自校方式が最も望ましいとした結論を、パブリック・コメントなどによる市民意見を聴くこともせずに、2021年5月の教育委員会で、中学校の給食を共同調理方式（センター方式）にする方針を決定したことにより組まれたものであり、教育委員会が決定した場合、市民の皆さんに周知すると答弁したにもかかわらず、いまだにきちんと市民の皆さんに知らされておりません。どれだけの市民の皆さんが、中学校給食のセンター化のことを知っているのでしょうか。理解しているのでしょうか。

多くの市民の意見をどう取り入れていくのかも不明なままです。行政の在り方は、市民の意見をしっかりと聴いて取り入れることが大切です。当局は、米沢市学校給食検討委員会の委員は市民の代表であり、意見、提案は十分市民ニーズとして反映されていると答弁されました。

ところが、一方で、その答申の中核である調理方式については、全く違うことを方針化しています。検討委員会の報告は、市の学校給食の在り方として、①小中学校ともに自校方式が最も望ましいとしています。このことを重視するならば、自校方式にすべきです。

②の自校方式ができない場合においては、親子方式の継続や給食センターも検討する。こうした

場合には、やはり市民の皆さんの意見を求める必要があると思います。市民の意見がないがしろにされていることが、反対理由の一つです。

次に、自校方式とセンター方式の経費の比較をきちんとしていない、そのことです。検討委員会の中核である具体的な調理方式として、実現に向けた財政考察がしっかりとされておらず、十分な知見も示すことなく、センター方式一辺倒で、その優位性のみ説明され、自らの正当性の積明に終始しているばかりであります。

さらに、今回の予算の算定根拠が不明確です。この金額で終わるのでしょくか。経費的なことがしっかりと検証されていないことが、反対の第2の理由です。

そして、今まで地元の農家の皆さんや地域の商店の皆さんの御協力をいただいて食材を納入してもらっていましたが、センター化によって今までのように納入することができるのでしょうか。センターでは、地域の商店や地元の農家の皆さんが納める量では足りなくなるのではないのでしょうか。大量に納入できる業者でなければ、納入できなくなるのではないのでしょうか。そのことを納入されている皆さんに説明されているのでしょうか。このままセンター化に進めば、地場の商店や農家が今まで以上に疲弊してしまうのではないかと非常に不安であり、このことも反対する理由の一つです。

センター化では、子供たちのため、安全・安心のためと言いながら、子供たちの成長に大事な食や食育が忘れられているのではと感じざるを得ません。栄養教諭が2名配置になるとしていますが、米沢市全体ではどうなっていくのでしょうか。現在は、親子方式のために加配になっている状況です。特に、食育やアレルギー対応食には、教育委員会が言っているようなきめ細やかな対応ができるとは思えません。ほかの多くのセンターを見ても、卵や乳製品だけを除去している状況です。

そのことから、センター化を進める今回の補正予算に反対いたします。

します。

この場合、提出者から提案理由の説明を求めます。

提出者23番中村圭介議員。

〔23番中村圭介議員登壇〕

○23番（中村圭介議員） ただいま上程になりました発議第5号コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書の提出についてであります。本案は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、来年度も地方財政は巨額の財源不足が避けられない厳しい状況にあることから、令和4年度地方税制改正に向け、地方一般財源総額の確保などを求めて、関係機関に対し、意見書を提出しようとするものであります。

以下、意見書案を朗読して、提案理由の説明に代えさせていただきます。

〔別紙 発議第5号朗読〕

以上であります。議員各位の御賛同をお願い申し上げます。

○相田克平議長 ただいまの提出者説明に対し、御質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相田克平議長 質疑を終結いたします。

次に、議員間討議を行います。議員間討議の御希望はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相田克平議長 なければ、議員間討議を終結いたします。

これより討論に入りますが、通告がありませんので、討論を終結し、採決いたします。

お諮りいたします。

発議第5号を原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○相田克平議長 御異議なしと認めます。よって、発議第5号は原案のとおり決まりました。

.....

日程第27 発議第6号豪雪地帯対策特別措置法の改正等に関する意見書の提出について

○相田克平議長 次に、日程第27、発議第6号豪雪地帯対策特別措置法の改正等に関する意見書の提出についてを議題といたします。

この場合、提出者から提案理由の説明を求めます。

提出者23番中村圭介議員。

〔23番中村圭介議員登壇〕

○23番（中村圭介議員） ただいま上程になりました発議第6号豪雪地帯対策特別措置法の改正等に関する意見書の提出についてであります。本案は、豪雪地帯における様々な課題に対応し、住民の安全、安心な生活を確保するため、豪雪地帯対策特別措置法の特例措置の延長や財政支援制度の創設などを求めて、関係機関に対し、意見書を提出しようとするものであります。

以下、意見書案を朗読して、提案理由の説明に代えさせていただきます。

〔別紙 発議第6号朗読〕

以上であります。議員各位の御賛同をお願い申し上げます。

○相田克平議長 ただいまの提出者説明に対し、御質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相田克平議長 質疑を終結いたします。

次に、議員間討議を行います。議員間討議の御希望はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相田克平議長 なければ、議員間討議を終結いたします。

これより討論に入りますが、通告がありませんので、討論を終結し、採決いたします。

お諮りいたします。

発議第6号を原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○相田克平議長 御異議なしと認めます。よって、発議第6号は原案のとおり決まりました。

.....

市長挨拶

○相田克平議長 以上で、本定例会に付議されました案件は全部議了いたしました。

閉会前に、市長から発言を求められておりますので、これを許可します。中川市長。

〔中川 勝市長登壇〕

○中川 勝市長 市議会9月定例会の閉会に当たり、一言御挨拶申し上げます。

去る9月1日に招集いたしました本定例会は、本日、全日程を終了いたしました。29日間にわたる会期中、令和2年度一般会計及び特別会計並びに公営企業会計の各決算の認定、補正予算など、数多くの案件について、終始真剣な御審議をいただき、厚く御礼申し上げます。

審議の過程で賜りました重要な御指摘、御意見等につきましては、今後の市政執行に十分反映していきたいと考えております。

さて、このたび令和2年度の各会計の決算を認定いただきましたが、一般会計決算においては、新型コロナウイルス感染症対策に係る事業費が大幅に増加したものの、感染症対策に係る交付金などが増加したことに加え、市税も増加したことなどから、最終的な修正実質単年度収支は2年ぶりに黒字となりました。また、経常収支比率も92.5%に改善し、財政健全化の取組の成果が表れたものと考えております。

しかし、新病院建設事業や統合中学校の整備などの大規模事業や、いまだ収束していない新型コロナウイルス感染症への対応など、今後も歳出増加が見込まれることから、健全財政の維持に向けて、引き続き、歳入の確保や効率的な事業の推進に努めてまいります。

今後の市民生活や市内経済の状況を注視し、場合によっては緊急の予算措置等の対応が必要となることも考えられますので、議員各位の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、議員各位の御健勝をお祈り申し上げ、御礼の挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

.....

閉 会

○相田克平議長 これをもちまして令和3年9月定例会を閉会いたします。

午前11時54分 閉 会